

	一般的名称	報告の概要
191	ワルファリンカリウム	ワルファリンによる治療を受けている患者2731例を対象としたプロスペクティブコホート研究において、59歳以下の患者に比べて80歳以上の患者では大量出血のリスクが約4倍、致死的な出血のリスクが約9倍高かった。
192	ガドペンテ酸メグルミン	MRI用ガドリニウム含有造影剤と腎性全身性繊維症/腎性繊維化性皮膚症(NSF/NFD)に関しての前臨床試験結果が報告された。
193	テモゾロミド	一医療機関において、再発glioma患者7例にテモゾロミドを投与したところ、全例にアルブミン上昇が認められた。
194	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンの常用者において、多発性骨髄腫の発症リスク上昇が示唆された。
195	非ピリン系感冒剤(2)	アセトアミノフェンの中毒事故による急性肝不全で2名が死亡した。
196	フルコナゾール	健康成人18例を対象とした無作為化反復投与クロスオーバー併用試験において eplerenone投与により、フルコナゾールのC _{max} ,AUC、血中半減期が増加した。
197	ガドペンテ酸メグルミン	ガドペンテ酸メグルミン投与に関連した腎性全身性繊維症・腎性繊維化性皮膚症(N SF・NFD) 78例のサマリーとして、FDAの要求に応じ提出した資料が報告された。
198	レボホリナートカルシウム	転移性結腸癌患者を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン/イリノテカン/panitumumab併用療法を検討したPhase II 試験において、麻痺性イレウスにより1例が死亡した。
199	ホリナートカルシウム	結腸直腸癌の肝転移に術前化学療法を行った406例を対象としたレトロスペクティブ研究において、肝不全、急性呼吸窮迫症候群、脳血管障害、心筋梗塞、凝血異常、胆汁漏出・敗血症、原因不明により11例が死亡した。
200	ホリナートカルシウム	難治性膵癌患者17例、胆管癌患者8例、結腸直腸癌患者3例、胃癌患者2例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン/イマチニブまたはフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン/イマチニブのPhase I 用量漸増試験において膵癌患者1例が白血球減少症、顆粒球減少症、血小板減少症、好中球減少性発熱をきたし、多臓器不全により死亡した。
201	ナプロキセン	16歳未満の若年性特発性関節炎(JIA)患者において、早期発症関節型関節炎はナプロキセン誘発性ポルフィリン症をおこす危険因子となることが示唆された。
202	ホリナートカルシウム	ステージII,IIIの結腸癌患者2492例を対象として、術後アジュバント療法としてのweekly フルオロウラシル/ロイコボリン療法とweekly フルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン療法を比較するPhase III試験において、腸障害により前群で5例、後群で1例死亡した。また、化学療法開始後60日以内の死亡例は全体で28例であった。
203	ジドブジン	一医療機関において、QTc>440msecのHIV感染外来患者64例(ケース)とQTc≤440msecのHIV感染外来患者256例(コントロール)を対象としたケースコントロール研究において、ネルフィナビルベースの治療、又はエファビレンツベースの治療にジドブジンを併用する群、併用しない群と比較してQTc間隔延長リスクが約3倍増加することが示唆された。
204	レボホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者627例を対象としたセカンドライン治療としてのカペシタビン/オキサリプラチン(XELOX)とフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン(FOLFOX4)を比較したPhase III試験において、60日間の全死亡率がXELOXで3.9%、FOLFOX4で4.2%であった。
205	レボホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者197例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン時間調節療法(chronoFLOレジメン)とイリノテカンとの併用療法を検討するランダム化試験において、3例が死亡した。
206	ラベプラゾールナトリウム	プロトンポンプ阻害剤の使用により、市中肺炎発症リスクが上昇し、中でも使用開始直後はリスク上昇率が高いことが示唆された。
207	グリベンクラミド	健康人12例を対象としたプラセボ対照無作為化3相交差試験において、クラリスロマイシンとグリベンクラミドの併用でグリベンクラミドの血漿中濃度が増加することが示唆された。